

## 35年分の重みがつまった 超定番なサンドイッチ



JR立川駅から多摩モノレールに乗り換えて約5分、「泉体育館」という駅からさらに10分ほど歩いた閑静な住宅街に、「デリシャス」があります。

目の前はトラックが行き交う五日市街道。そんなロケーションにもかかわらず、今年で35周年を迎えるこの小さなお店のサンドイッチは、わざわざ遠方から買いに訪れるお客さんまでいるほど大人気。さぞかし特別なサンドイッチなのかと思いきや、店頭に並んでいるのは、カツサンドやツナサンド、たまごサンドなどなど、スタンダードなメニューばかりです。

第一印象は、どこにもありそうな街のサンドイッチ屋さん。だけど、その「定番ぶり」こそが、デリシャスが長きにわたって愛される秘密なんです。

### 20歳で店をオープン それからずっと同じ場所

デリシャスは1978年、店主の清水康雄さんが、両親が経営していた喫茶店の一部を改装してオープンしました。当時、清水さんは弱冠20歳。それ以来、同じ場所で営業を続けています。でも、どうしてサンドイッチ屋さんを始めることに？

「大学に入学したばかりのときに父親が病気になるって、私か兄のどちらかが店を継がなきゃいけないってなりました。ただ、兄はもう4年生で卒業間近だった。それを辞めさせるのはかわいそうだってことで、私が中退することになりました。もともと将来は自分で商売をしたいなって考えていたから、それほど抵抗はなかった。まあ、こんなに早くから始めるつもりはなかったですけれど（笑）」

そんな清水家の喫茶店は、美味しいサンドイッチが名物のひとつになっていました。自家製ではなく、近隣の「ポパイ」というサンドイッチ屋さんが卸していたそうです。

「そのサンドイッチが、今までに食べたことがないような味でびっくりした。一目惚れしちゃったんです」と清水さん。思い立ったが吉日とばかりに、すぐにポパイへの弟子入りを決めてしまいます。そして半年間の厳しい修業の後、デリシャスをオープンしました。

現在、残念ながらポパイは閉店。当時のオーナーも行方知れずになっているとか。

清水さんは、「サンドイッチ作りで大切なことは全部、ポパイで学びました」と感慨深く振

り返ります。実は、「デリシャス」という店名の由来も、かつてポパイで販売していた「スペシャル」（カニサラダとたまごのサンドイッチ。激旨！）にあやかったものでした。

「むこうが『スペシャル』だから、うちは『デリシャス』だという単純な考え（笑）」

ポパイは閉店しましたが、この「スペシャル」のレシピは清水さんに受け継がれ、今でもお店の人気メニューのひとつになっています。

一方、看板商品の「デリシャス」は、ポテトサラダ、たまご、ハム、チーズなど、サンドイッチの「定番の具」がびっしりつまった豪華な一品。これがお店でもっとも高いメニューな



35年前、開店したばかりの「デリシャス」。隣にはまだ喫茶店がありました